

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		垣花 シゲ	所 属	医学部 保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	学部では看護学概論、生活援助看護技術Ⅰ、生活援助看護技術Ⅱ、生活援助看護技術実習Ⅰ、生活援助看護技術実習Ⅱ、フィジカルアセスメント、看護システムと国際看護を担当する。フィジカルアセスメントは、おきなわシミュレーションセンターと協働して学生の興味とモチベーションを高める教育を行う。看護システムと国際看護では、JICAと協力してグローバルなマインドを育てる教育を行う。博士前期課程では看護管理学特論、基礎看護特論を担当、保健学研究方法、保健学特論を分担、博士後期課程では国際看護学特論を担当、国際島嶼保健学特論をオーガナイズする。		0.40	設定した目標に到達した。	
研究	0.40	海外の交流協定校の教員と協力して看護教育方法(感染看護、看護技術教育)に関する研究を実施する。また、看護ケアの向上・開発に関する研究を学部学生・博士課程学生に指導し、国内外の学会発表・学会誌等への発表を行う。博士前期課程学生の研究費獲得に関する書類作成指導を積極的に実施する。		0.40	交流協定校ラオス保健科学大学看護学部及び共同研究施設の疫学研究センター、マホソト病院、セタチラート病院、ミッタバップ病院との協働で院内感染対策システムの評価を行い、Asia Pacific Academic Consortium for Public Health学術会議で報告した。学部生および博士前期学生に看護管理、看護教育に関する研究の指導を行い学内発表会で発表、投稿準備中である。中期計画達成プロジェクト経費研究事業「ラオス国における基幹病院の感染制御チーム体制評価と病院間ネットワーク構築及び院内感染菌の現状解析」の研究メンバーとして貢献した。	
社会 貢献	0.10	1. 琉球大学医学部附属病院との教育・研究におけるユニフィケーションの推進を引き続きバックアップし、必要に応じてconsultingを行う。 2. 琉球大学医学会副会長として会の運営を担当する。 3. 沖縄県看護協会「認定看護管理者教育運営委員会委員」および研修講師を担当 4. 国立保健医療系大学協議会看護分科会基礎教育委員会委員を担当する 5. JICA沖縄研修コース「公衆衛生活動における母子保健強化」の講師を担当する。 6. スーパーグローバルハイスクールプログラム高校へ「国際保健医療」の講義と討論を行う。		0.10	1. 琉球大学医学部附属病院との教育・研究におけるユニフィケーションの推進およびconsultingを行った。 2. 琉球大学医学会副会長として会の運営に貢献した。 3. 沖縄県看護協会「認定看護管理者教育運営委員会委員」および研修講師を担当した。 4. 国立保健医療系大学協議会看護分科会基礎教育委員会委員として、会議出席およびメール会議で看護基礎教育改善に貢献した。 5. 宮崎県立看護大学で国際看護の講師を担当した。 6. スーパーグローバルハイスクールプログラム高校岐阜県大垣高校生徒に「途上国における国際看護活動」の講義及び討論を行った。	
管理 運営	0.05	医学部教授会、医学部保健学科運営会議、保健学研究科委員会、保健学研究科博士後期課程委員会構成員として学部及び研究科の管理運営に関わる。学部間交流協定校タイ国チェンマイ大学の学生受け入れ、及び本学学生の派遣に関するタスクフォース員として、活動計画作成、訪問施設への協力依頼等を担い学科のミッション「グローバル強化」に貢献する。		0.05	医学部教授会、医学部保健学科運営会議、保健学科入試委員会、保健学研究科委員会、保健学研究科博士後期課程委員会構成員として学部及び研究科の管理運営に貢献した。学部間交流協定校タイ国チェンマイ大学の学生交流受け入れ、及び本学学生の派遣に関するタスクフォース員として、活動計画作成、訪問施設への協力依頼、徳明会への援助依頼等を行い学科のミッション「グローバル強化」に貢献した。	
その他	0.05	研究室3年次・4年次、博士前期および後期課程学生の卒業後の進学、留学、就職に関する相談・指導にあたる。履歴書や願書の記載指導、紹介状の作成等をおこなう。琉球大学医学部保健学科同窓会長として会員の獲得および在学生及び卒業生への支援活動を強化する。		0.05	研究室3年次・4年次、博士前期および後期課程学生の卒業後の進学、留学、就職に関する相談・指導にあたる。履歴書や願書の記載指導、紹介状の作成等をおこなう。琉球大学医学部保健学科同窓会長として会員の獲得および学部生の課外活動支援を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高倉 実	所 属		医学部保健学科
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	<p>共通教育科目(運動スポーツ科学演習)を担当し、全学的教育に貢献する。学部担当科目(疫学, 学校保健学, 健康教育学, 保健統計学)を担当し、専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目(学校保健学特論・特演, 保健学研究方法2回, 保健学特論1回)を担当し、特に保健学研究方法は量的研究の進め方について講義を行う。大学院博士後期課程科目(保健学特別講義3回, 健康増進開発学特論)を担当し、疫学的研究方法について講義する。Learning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文, 博士論文の指導を行う。</p>		0.30	<p>共通教育(健康スポーツ科学演習), 学部教育, 大学院教育について、各々の授業評価は良好であり、目標を達成した。 学部科目の「疫学」の講義にLMSのWebClassのテスト機能を使用して、演習問題を掲載し学生に予習復習させるようにした。その結果、本科目の期末試験の平均点は高得点を維持している。また、「健康教育学」および「学校保健学」においてもWebClassを活用して指導した。さらに、大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」の英語教材をWebClassに掲載して復習させるようにした。今年度は3名の卒業論文を指導した。</p>
研究	0.30	<p>研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。外部資金を研究代表者・分担者として獲得し、応用健康科学に関する研究を学外機関との共同研究として実施する。日本健康教育学会学会誌, 日本体育学会誌の編集委員として学会誌を編集するとともに、関連学会学術誌の査読を行う。</p>		0.30	<p>平成27年度日本学校保健学会「学会賞」を受賞した。 国際誌 Int J Public Health (IF: 2.401 39/165-Q1)に1編(筆頭著者)の学術論文を発表した。 国内和文誌(査読有)に1編の学術論文を発表した。 国内学会に12題(筆頭演者2題)の研究発表を行った。 研究代表者として新規に科研費(B)と挑戦的萌芽研究を獲得した。研究分担者として2件の科研費(B)を獲得した。研究分担者として沖縄振興特別推進交付金を獲得した。 日本健康教育学会誌編集委員として教科書編集作業を開始した。日本体育学会誌編集委員として1編の編集担当, 国際誌1編の査読, 国内誌の7編(1英文)の査読を担当した。</p>
社会 貢献	0.20	<p>関連学会の代議員・評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県をはじめとする行政の各種委員会の委員や研修会講師等を務め、委員会活動に積極的に参加する。来年、沖縄で主催する第25回日本健康教育学会学術大会の準備を進める。</p>		0.20	<p>関連学会の代議員(日本学校保健学会, 日本健康教育学会), 評議員(日本疫学会, 日本民族衛生学会), 沖縄県公衆衛生学会幹事 沖縄感染症研究拠点形成促進事業「動物媒介性感染症対策の沖縄での施策提言とネットワーク形成に関する研究」研究推進委員会委員長 第25回日本健康教育学会学術大会準備委員会委員長 沖縄振興特別推進交付金事業「健康行動実践モデル実証事業」のコメンターとして、報告会, 地域健康づくりセミナー, 学校・地域説明会および学校・地域調査等を実施した。</p>
管理 運営	0.20	<p>琉球大学疫学研究倫理審査委員会をはじめとする全学的委員会, 学部内各種委員会に積極的に参加する。</p>		0.20	<p>琉球大学疫学研究倫理審査委員長として運営・審査に当たった。学内各種委員会に積極的に参加した。</p>
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	加藤 種一		所属	医学部 保健学科	
職名	助教				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行う。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデータの統計処理に重点を置く。共通教育では、運動・スポーツ科学演習(ゴルフ)を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行う。琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める関係上、4年生(4名)、3年生(2名)の面接等による進路指導にあたる。	0.30	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行った。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデータの統計処理にも基礎的な部分では十分クリアした。共通教育では、運動・スポーツ科学演習(ゴルフ)を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行った。卒業研究生(4年生2名)の卒業研究指導、就職相談等を行い、2名とも看護師として内定した。また、琉球大学ゴルフ部の部員4年生(4名)の就職相談、進路指導を行い、建設会社2名、公務員1名、大学院1名が内定した。	
研究	0.30	2005年、2010年と実施した県内某国家機関職員の悩みの調査を本年度も実施し、5年ごとの経年変化を調査する。沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する調査をのプレテストの結果を含め質問紙、調査計画を作成し、年度内に調査を実施する。	0.30	2005年、2010年と実施した県内某国家機関職員の悩みの調査を本年度も実施し集計、2005、2010、2015年と継続的に解析し、1部を保健科学研究会で発表した。沖縄県内、中学・高校生ゴルファーのスポーツ障害に関する調査をのプレテストの結果を含め質問紙を作成したが調査計画が未定である。	
社会貢献	0.20	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行う。湘中央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学(非常勤講師)を担当する。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営にあたる。	0.20	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行った。湘中央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学(非常勤講師)を担当した。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営にあたった。	
管理運営	0.10	平成28年度の大学入試センターの試験監督、前期或いは後期試験の試験監督等に従事する。	0.10	平成28年度の琉球大学前期試験の試験監督に従事した。後期試験も試験監督等に従事する予定である。	
その他	0.10	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める。県内外の大会への選手派遣、またゴルフを通じた人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導する。	0.10	琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務め、全日本学生ゴルフ選手権(千葉)に男女1名づつ、九州地区学生ゴルフ6大会に選手を派遣した。またゴルフを通じた人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1)本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	大滝知子	所 属	医学部 保健学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	<p>①学部担当科目の目標に照らし実践・研究にむけた看護教育内容を充実する。</p> <p>②皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の実習において毎週火曜日(8時～9時:泌尿器科病棟、9時～13時迄泌尿器科外来)で患者相談や検査、泌尿器関連の看護ケアを行い看護実践教育に活かす。</p> <p>③学生と教員として看護実習指導者と連携して積極的に意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行う。</p> <p>④病院と連携して実践教育のできる教育補助者を有効活用し、その質向上に努める。</p> <p>⑤作成した自己導原マニュアルを着用学生や臨床看護師へ紹介し自己導原の普及に努める。</p> <p>⑥海外(タイ)の学校が保健学科訪問時に感染対策の取り組みについて病院内を見学案内する。</p> <p>【急性期看護実習・急性期看護実習】</p> <p>病後の感染関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れる。急性期看護実習の授業では、実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を授業に反映させる。シミュレーション基礎型教育セミナー(FunSim)、FunSimのアドバンスコースの研修を独自に実施し急性期看護実習の講義に独自にシミュレーション教育を発展させた。</p> <p>【感染看護】</p> <p>実際の病院内で感染対策の実践を考察する。看護英語文献講読:米国看護師へ文献講読後にプレゼンテーションして学力向上にむける。</p> <p>【研究】</p> <p>①学生の研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と原炭素看護分野を学ぶ学生の人材育成を行う。</p> <p>1)介護支援ボランティア活動を支援するための検討</p> <p>2)自己決定を支援する患者会活動の在り方の考察</p> <p>3)骨髄腫患者の自己管理とケアの検討</p> <p>4)看護実習学生における環境整備の手順作成</p> <p>5)原炭素女性におけるジェンダーへの取組</p>		0.30	<p>①学部担当科目の目標に照らし実践・研究にむけた看護教育内容を充実した。</p> <p>②沖縄県看護協会から依頼されて皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程研修生14名を対象に11月10日～12月15日の毎週火曜日8時30分～17時迄、泌尿器科外来において患者相談や検査、泌尿器関連のケアと実習を行い病院内・在宅で実践教育を実施し、看護実践教育を担う実践者として積極的に意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行った。</p> <p>③保健学科看護実習と教員として看護実習指導者と連携して積極的に意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行った。</p> <p>④病院と連携して実践教育のできる教育補助者を有効活用し、その質向上に努めた。</p> <p>⑤作成した自己導原マニュアルを着用学生や臨床看護師へ紹介し自己導原の普及に努めた。</p> <p>⑥海外(タイ)の学校が保健学科訪問時に感染対策の取り組みについて病院内を見学案内して感染対策の現状を紹介した。</p> <p>【急性期看護実習・急性期看護実習】</p> <p>病後の感染関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れた。急性期看護実習の授業では、実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を授業に反映させる。シミュレーション基礎型教育セミナー(FunSim)、FunSimのアドバンスコースの研修を活かし急性期看護実習の講義に独自にシミュレーション教育を発展させた。</p> <p>【感染看護】</p> <p>実際の病院内で感染対策の実践を考察する。看護英語文献講読:20名の学生が登録して米国看護師へ文献講読後にプレゼンテーションして学力向上にむけた。</p> <p>【研究】</p> <p>①学生の研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と原炭素看護分野を学ぶ学生の人材育成を行っている。平成27年度は特に沖縄放送大学における通信生の研究指導を行った。また、放送大学25周年記念として放送大学学生へ原炭素看護分野に関する「学び」の公開講座として講義2回を行った。(6月19日「看護学を学ぶ、教育・実践・研究からの発見」、8月14日「排原菌種への自己導原の学び、看護教育・実践・研究からの発見」)</p> <p>1)介護支援ボランティア活動を支援するための検討を行った。</p> <p>2)自己決定を支援する患者会活動の在り方の考察</p> <p>3)骨髄腫患者の自己管理とケアの検討</p> <p>4)看護実習学生における環境整備の手順作成の論文作成</p> <p>5)原炭素女性におけるジェンダーへの取組:沖縄県看護協会皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程研修生にも執筆した書面内容について討議できた。</p>
研究	0.30	<p>①琉球大学附属病院職員看護師や地域連携ネットワークの方々と共に研究する。</p> <p>②平成28年2月の第31回日本感染症学会評議員として学会での役割を努める。</p> <p>③関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に活用できる看護の研究開発に努める。</p> <p>④専門分野に即した研究助成(ジェンダー研究)を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成27年度の研究報告を行う。</p> <p>⑤日本老年泌尿器科学会に参加して排原菌検査士講習会を受け役割の継続を行う。また排原菌検査士講習会に参加して認定継続を受ける。</p>		0.30	<p>①11月21日に当教室主催(倉長・砂川洋子教授)の第20回九州・沖縄地方学術集会を開催し、琉球大学附属病院職員看護師や地域連携ネットワークの方々と共に、演題発表を行った。「大滝知子:A市内デパートに共通高齢者における排原菌に関するアンケート調査。第20回九州・沖縄地方学術集会抄録集。39。2015。」</p> <p>②沖縄県のおおだにあり第15回日本感染症学会評議員として学会参加できなかった。</p> <p>③平成28年2月の第31回日本感染症学会評議員として学会での役割を努めた。</p> <p>④関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に活用できる看護の研究開発に努めた。</p> <p>⑤日本老年泌尿器科学会に参加して排原菌検査士講習会を受け役割の継続を行った。また排原菌検査士講習会に参加して認定継続を受けた。</p> <p>⑥専門分野に即した研究助成(ジェンダー研究)を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成27年度の研究報告を行う。</p> <p>⑦2015年11月12日第14回東アジア感染制御カンファレンスにてポスター発表した。Tomoko Owan, Ryutaro Kunishige, Miyuki Tomishima, Sakiko Mukatake, Maashi Nakamatsu, Futoshi Higa, Masao Tateyama, Tomoko Owan/Prevention of a Nosocomial Infection Caused by Influenza Virus A Using Prophylactic Administration of Oseltamivir-An Observational Study with Review of the Literature. Journal of General and Family Medicine vol.16, no.3, 143-152, 2015.</p> <p>⑧平成28年1月に専門分野に関連した研究助成(文部科学省特別経費プロジェクト:沖縄におけるジェンダー学理論化と学術的実践～沖縄ジェンダー学の創出)の最終報告書を執筆して提出した。</p> <p>⑨琉球大学附属病院職員看護師や地域連携ネットワークの方々と共に研究する。</p> <p>⑩平成28年2月の第31回日本感染症学会評議員として学会での役割を努めた。</p> <p>⑪関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に活用できる看護の研究開発に努めた。</p> <p>⑫専門分野に即した研究助成(ジェンダー研究)を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成27年度の研究報告を行う。</p> <p>⑬日本老年泌尿器科学会に参加して排原菌検査士講習会を受け役割の継続を行う。また排原菌検査士講習会に参加して認定継続を受ける。</p>
社会貢献	0.30	<p>①感染制御学大学院協議会委員として協議会の役割を努める。</p> <p>②沖縄県疫学研究所学術委員として学外の審議会参加に努める。</p> <p>③沖縄県ICNネットワーク勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師として安全管理対策看護師とともに連携して琉球大学医学部臨床実践部(勉強会を1年に3回開催、第10回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努める。</p> <p>④沖縄県ICNネットワーク勉強会1年12回開催、第10回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努める。</p> <p>⑤沖縄県原炭素勉強会代表世話人として県内の原炭素看護の専門職者と研究会や勉強会、公開講座を開催する。</p> <p>⑥関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行う。</p> <p>⑦他大学・専門学校や医療施設の非常勤講師を務め、地域社会連携を深める。</p> <p>⑧県内で感染看護や原炭素看護に関する市民公開講座を実施して、「自己導原マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行った。</p> <p>⑨沖縄県看護協会との連携を深め、講義をおこなって看護や介護の質向上に取り組み、「皮膚・排泄認定看護師教育課程教育委員会委員」として看護協会から研修生や学生に研修指導を行う。</p> <p>⑩琉球大学附属病院での看護実践、保健学科での看護教員としての教育、それを基盤として統合した研究、ユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめる。</p> <p>⑪「琉球大学附属病院の活動支援プロジェクト」を継続して行い、琉球大学の患者や職員そしてボランティアを支援する。</p>		0.30	<p>①夏の台風が有感感染制御学大学院協議会委員として協議会に出席できなかった。</p> <p>②沖縄県疫学研究所学術委員として学外の審議会参加に努めた。</p> <p>③沖縄県ICNネットワーク勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師として安全管理対策看護師とともに連携して琉球大学医学部臨床実践部(勉強会を1年に3回開催、第10回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努めた。</p> <p>④沖縄県ICNネットワーク勉強会1年12回開催、第10回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努めた。</p> <p>⑤沖縄県原炭素勉強会代表世話人として県内の原炭素看護の専門職者と研究会や勉強会、公開講座を開催する。</p> <p>⑥関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行った。</p> <p>⑦他大学・専門学校や医療施設の非常勤講師を務め、地域社会連携を深めた。</p> <p>⑧県内で感染看護や原炭素看護に関する市民公開講座を実施して、「自己導原マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行った。</p> <p>⑨沖縄県看護協会との連携を深め、講義をおこなって看護や介護の質向上に取り組み、「皮膚・排泄認定看護師教育課程教育委員会委員」として看護協会から研修生や学生に研修指導を行う。</p> <p>⑩琉球大学附属病院での看護実践、保健学科での看護教員としての教育、それを基盤として統合した研究、ユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめた。</p> <p>⑪「琉球大学附属病院の活動支援プロジェクト」を継続して行い、琉球大学の患者や職員そしてボランティアを支援した。「平成27年10月13日に病院敷地内に植樹した。(病院ホームページ掲載: http://www.hosp.u-ryukyuu.ac.jp/sqa/PublicationInformation/ryukyusaagyou/151013.pdf)。平成28年2月15日に病院外発フロアで「ハライタインデ」後に元気を現る琉球音楽隊演奏会を開催した。</p> <p>⑫平成27年10月16日、平成27年度九州地区3級普及指導員ラウンド・ゴルフ研修会ラウンド・ゴルフ研修会において「高齢者スポーツと原炭素について」を講演した。</p>
管理運営	0.03	<p>①医学部特別管理産業廃棄物管理責任者、医学部廃棄物処理委員会委員として医学部における廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底を行う。また、エコアクションに関する取組も行う。</p> <p>②琉球大学附属病院感染対策委員会委員、感染対策業務会議感染対策担当看護師、感染対策委員、感染対策安全安全管理リスクマネージャーとして役割を遂行し附属病院における感染対策を行う。</p> <p>③琉球大学における九州厚生局医療監視に対応して院内感染対策・管理を紹介する。</p> <p>④琉球大学における感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が2回出席できるよう開催し職員の質向上に努める。</p> <p>⑤琉球大学ICNネットワーク勉強会代表世話人として、6回記念を開催し県内医療従事者の感染対策質向上に努める。</p> <p>⑥本年島嶼防災研究センターの委員として防災と災害復旧に関連した活動を行う。</p>		0.03	<p>①医学部特別管理産業廃棄物管理責任者、医学部廃棄物処理委員会委員として医学部における廃棄物処理方法手順を見直し周知徹底を行った。また、廃棄物廃棄容器を段ボール箱かビニール袋か管理職課のエコアクションに関する取組も行った。(病院ホームページ掲載)</p> <p>②琉球大学附属病院感染対策委員会委員、感染対策業務会議感染対策担当看護師、感染対策委員、感染対策安全安全管理リスクマネージャーとして役割を遂行し附属病院における感染対策を行った。</p> <p>③琉球大学における九州厚生局医療監視に対応して院内感染対策・管理・廃棄物処理について紹介した。</p> <p>④琉球大学における感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が2回出席できるよう開催し職員の質向上に努めた。</p> <p>⑤琉球大学ICNネットワーク勉強会代表世話人として、6回記念を開催し県内医療従事者の感染対策質向上に努めた。</p> <p>⑥本年島嶼防災研究センターの委員として防災と災害復旧に関連した活動、エボラ対策としての防護具の取組など12月17日の第9回防災・環境シンポジウムで「国際感染症対策・防災に向けた取り組み～看護ケアの視点・拡大から発信～」を講演して説明した。</p> <p>⑦島嶼防災センターで開催した賞状で毎年2月17日は天野浩志ノーベル賞受賞の記念として講演会開催を支援した。</p> <p>⑧大滝知子:病院環境レジオナ感染対策における患者連携システムの構築:琉球大学環境報告書2015.32.に掲載して病院の部署連携を示した。</p> <p>⑨初めて琉球大学と附属病院の公開講座を主催という形で企画し、平成28年度琉球大学公開講座「第13回沖縄県民の健康公開講座」において「得する腎・膀胱と更年期女性のごときまよう!」を4月2日に開催予定となった。</p>
進路指導	0.04	<p>①県内外の病院紹介を行い、学生の将来の進路相談に対応する。</p> <p>②卒業研究を受けた既卒者と連携して就職説明会を開催する。</p>		0.04	<p>①県内外の病院紹介を行い、学生の将来の進路相談に対応した。</p> <p>②卒業研究を受けた既卒者の例で卒研内容を紹介した。</p> <p>③「VUIの大学院修士課程を履修した既卒生から専攻センターが提供する小測スカラーシップの推薦状を依頼され書類作成して支援した。</p> <p>④卒業延期した学生の家族と一緒に学生が卒業できるよう支援した。</p> <p>⑤臨床検査コースの卒業研究をなかなか進めなかった学生の研究への導きと就職相談をした。</p>
研究活動	0.03	<p>①琉球大学感染対策室での感染対策担当看護師として活動しており、病院内の感染防止対策を実施している。</p> <p>②看護実習期間を除き、毎週火曜日に琉球大学附属病院泌尿器科病棟と外来で、排原菌検査士・原炭素相談看護師として排原菌検査患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築する。</p> <p>③琉球大学附属病院の活動支援プロジェクトを継続して実施する。</p> <p>④診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師の排原菌検査士認定資格取得を支援する。</p>		0.03	<p>①琉球大学感染対策室での感染対策担当看護師として活動しており、病院内の感染防止対策を実施した。</p> <p>②看護実習期間を除き、毎週火曜日に琉球大学附属病院泌尿器科病棟と外来で、排原菌検査士・原炭素相談看護師として排原菌検査患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築</p> <p>③琉球大学附属病院の活動支援プロジェクトを継続して実施した。</p> <p>④診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排原菌検査士認定資格取得を支援し、今年度2名の看護師が申請する。</p>
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>

※当該シート(表)の公表に同意しない場合は、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名前	照屋典子	所属	保健学科成人・老年看護学講座 成人・がん看護学分野	職名	助教
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	<p>【前期】</p> <p>①医学科・保健学科1年次の合同講義「シミュレーション」のファシリテーターを担当する。</p> <p>②『緩和ケア論』(1単位)では、シラバス作成、非常勤講師との調整を行う。『がん看護論』(1単位)ではシラバス作成、非常勤講師との調整、講義担当、緩和ケア病棟実習の調整を行う。</p> <p>③『急性期看護実習』は、8西、6東、7西病棟で、各2週間(15名)の実習を担当する。『成人総合看護実習』では、8西、6東、7西病棟で各1週間(15名)を担当する。</p> <p>【後期】</p> <p>①『成人看護学』(2単位)ではシラバス作成、講義を担当する。</p> <p>②『成人急性期看護』では「術前看護」講義、シミュレーション教育による「術前・術後演習」を担当する。</p> <p>③『看護総合実習』(2単位)では、全体のオーガナイズ、並びに学生2名の個別指導を担当する。学生がより主体的に自己の学習課題が達成できるよう学生への助言、並びに看護系教員や実習施設との調整を行う。</p>	0.30	<p>【前期】</p> <p>①医学科・保健学科1年次の合同講義「シミュレーション」のファシリテーターを担当した。</p> <p>②『緩和ケア論』、『がん看護論』では、シラバス作成、講義、緩和ケア病棟見学実習、非常勤講師の調整を担当した。</p> <p>③『急性期看護実習』、『成人総合看護実習』では、学生15名を担当した。8西、6東、7西各病棟の看護チーム、主治医グループと連携、調整を図り、学生の受け持ち患者・家族ケア、退院指導の実習指導を行った。その他、手術見学実習、ICUでの見学実習の調整、指導も行った。</p> <p>【後期】</p> <p>①『成人看護学』ではシラバス作成、講義「成人期の健康」、「生活習慣病」を担当した。</p> <p>②『成人急性期看護』では、講義「術前看護」とシミュレーション演習「術前・術後看護」を担当した。</p> <p>③『看護総合実習』では、全学生のオーガナイズ、並びに学生6名を担当し、急性期看護(4名)、緩和ケア(2名)に関する実習指導、調整を行った。担当した学生より、「将来目指す看護師像が明確になった」、「看護の奥深さを知り、将来はさらに専門資格の取得を目指したい」等の感想が聞かれたことから、実習を通して、将来に向けた自己課題の明確化について、支援できたのではないかと考える。</p>	
研究	0.30	<p>①科研/基盤C「地域住民ボランティア参加型の緩和ケアネットワークモデルの構築」のアクションリサーチとして、研究協力施設である友愛会南部病院との共催による緩和ケアボランティア養成講座の開催、及び一般市民、医療職、介護職を対象としたワークショップイベント「最期まで住み慣れた地域で自分らしく生きるために何が必要か、考えてみよう」を実施し、地域住民とともに在宅療養や在宅緩和ケアの促進について、共に考える機会を持つ。</p> <p>②当分野の教授が代表を務める基盤C「若年女性の子宮頸がん予防・啓発に向けたピアサポーターによる教育支援」の研究分担者として、取り組んでいく。</p> <p>③今年度も引き続き、科研/基盤A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」の研究分担者として取り組んでいく。</p> <p>④科研/基盤B「看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポートスペクトラム構築に関する研究」の研究分担者として取り組んでいく。</p> <p>⑤今年度も引き続き、日本がん看護学会の専任査読委員の活動を行う。</p> <p>⑥今年度も引き続き、医学部附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションに関わる。</p> <p>⑦九州がんプロ養成基盤推進プランによるがん看護エキスパートナース養成コースが4期目を迎えるにあたり、これまでの受講生へアンケート調査を実施し、プログラムの評価を実施する(日本がん看護学会にて演題をエントリーし発表予定)</p> <p>⑧当分野の教授が学会長を務める日本看護研究学会第20回九州・沖縄地方学術集会を11月21日(土)医学部にて開催するが、その企画・実行委員長(事務局)を担当し、学会の企画、運営、準備に携わる。</p>	0.40	<p>①科研/基盤C「地域住民ボランティア参加型の緩和ケアネットワークモデルの構築」(研究代表者)の一環として、9月12日(土)糸満市にて、友愛会南部病院、糸満市社会福祉協議会、糸満市介護長寿課との共催により、一般市民、医療・介護・福祉職を対象としたワークショップ「最期まで住み慣れた地域で自分らしく生きるために何が必要か、考えてみよう」を開催した。120名余の参加があり、有意義な情報共有、意見交換ができた。終了後アンケート調査を行ったが、今後、さらにこのような企画の必要性を痛感した。アンケート調査結果については、今年6月の日本緩和医療学会にて演題発表を行う(採択済)。</p> <p>②科研/基盤C「若年女性の子宮頸がん予防・啓発に向けたピアサポーターによる教育支援」の研究分担者として、9月、子宮頸がん予防啓発活動を行うピアサポーター養成講座を2回開催した。</p> <p>③科研/基盤A「卒後1年目看護師の定着率向上を目的とした広域包括支援プログラムの開発研究」の一環として、新人看護師を対象とした看護技術シミュレーションセミナーを開催した。その際行ったアンケート調査についてまとめ、11月6-7日開催されたThe 2nd International Conference on Caring and Peace (東京)にて示説発表を行った。</p> <p>④科研/基盤B「看護系大学における発達障害傾向学生に対するサポートスペクトラム構築に関する研究」(研究分担者)に取り組み、最終年度である今年度は、所属大学における特別支援を要する学生への対応・体制をまとめ、今後の課題を検討した。</p> <p>⑤日本がん看護学会の専任査読委員として、投稿論文1件、第30回日本がん看護学会学術集会の演題8題の査読を行った。</p> <p>⑥附属病院看護部の看護研究ユニフィケーションに関わり、8西病棟の研究指導を行った。</p> <p>⑦九州がんプロ養成基盤推進プラン「がん看護エキスパートナース養成コース」が4期目を迎えるにあたって、修了生へアンケート調査を実施し、プログラムの評価を行った。その結果、修了生の看護実践の質の向上、がん看護に関する認定看護師の資格取得につながっていることが明らかとなった。本内容については、第30回日本がん看護学会にて示説発表を行い、他大学の教員や病院看護管理者との有意義な意見交換ができた。また、本内容について、学内の保健科学研究会でも発表を行った。</p> <p>⑧当分野の教授が学会長を務める日本看護研究学会第20回九州・沖縄地方学術集会を11月21日(土)医学部にて開催し、その企画・実行委員長(事務局)を担当した。学術集会には、約190名の参加があり盛況であった。学術集会当日は、全体の運営、並びに交流集會座長を務めたが、約1年間にわたる学会開催に向けた準備はとて貴重な経験であった。</p> <p>⑨大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」の取組について、The 2nd International Conference on Caring and Peace (東京)の交流集會、第35回日本看護科学学会の交流集會と口演、日本看護研究学会第20回九州沖縄地方学術集会の交流集會で発表した。今年度、本取組は文科省の中間評価にてS評価を受けた。</p> <p>⑩学内准教授の称号付与についての継続申請を行い、継続について承認いただいた。</p> <p>⑪以前、小林教授より助言を受け、取り組んでいた論文について、Ryukyuu Medical Journalへ投稿し、採択された(35巻1号掲載予定)。(なお、本論文は、琉球大学ジェンダー協働推進室のH27年度英文校閲費用助成事業に申請し、採択いただいた。)</p>	
社会貢献	0.20	<p>①今年度も8月22日(土)、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際」を開催するが、その調整・企画・運営(共催する中部徳洲会病院との調整、当日の進行等)を担当する。</p> <p>②九州がんプロ養成基盤推進プランの一環として、臨床看護師を対象とした後学期開講の「がん看護エキスパートナース養成コース」の講義担当、「がん看護セミナー」の企画運営を担当する。</p> <p>③今年度も昨年度に引き続き、大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」の琉球大学の担当者として、統一コード部会、研修調整部会、キャリア像確立部会に参加し、特別聴講生の受入れ、ナーシングキャリアカフェ等の事業に積極的に関わる。</p> <p>④今年度も引き続き、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」事業の琉球大学の担当者として、九州の看護系大学との共同研究、放送大学の国家試験問題解説に関わる。</p> <p>⑤今年度も昨年度に引き続き、沖縄県看護協会の学会委員として、来年7月に開催する日本看護協会急性期看護学会の準備に関わる。</p> <p>⑥今年度より、沖縄県都市計画審議会の第1号委員を担当する。</p>	0.20	<p>①8月22日(土)、中部徳洲会病院との共催により、琉球大学公開講座「がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際」を開催し、一般市民、医療関係者合わせて50名の参加があり、有意義な意見交換、情報共有ができた。次年度は、南部徳洲会病院との共催が決定しており、その企画、運営を担当する。</p> <p>②10月～九州がんプロ養成基盤推進プランによる「がん看護エキスパートナース養成コース」(臨床看護師7名履修中)の講義5コマを担当した。12月には、静岡県立静岡がんセンター看護部との共催による「がん看護セミナー in 沖縄」を開催し、看護学生、臨床看護師等、90名余の参加があった。</p> <p>③大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築」の取組として、10月に「海外研修報告会」を企画・開催し、タイチンマイ研修を行った保健学科学生とハワイ研修を行った沖縄県立看護大学の学生が互いに研修報告を行うことで、有意義な意見交換、交流を図ることができた。次年度も同様の企画を実施する予定である。また、単位互換の取組では、2年次1名から聖マリア学院大学の「国際看護論」の受講希望があり、履修手続き等の調整・支援を行った。学生より有意義な学習ができた大変好評であった。</p> <p>④「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」事業の琉球大学担当者として、九州の看護系大学との共同研究(科研基盤研究AB)、放送大学の看護師国家試験問題解説を担当した。</p> <p>⑤沖縄県看護協会の学会委員として、2017年2月学会開催に向けた準備に取り組んでいる。また12月には、2016年7月に開催する日本看護学会学術集会-急性期看護-の企画準備委員の委嘱を受け、その準備に取り組んでいる。</p> <p>⑥沖縄県都市計画審議会の第1号委員の委嘱を受け、これまで3回の会議に出席した。</p>	
管理運営	0.20	①入試関連業務を滞りなく、遂行する。	0.10	<p>①入試関連業務では、センター試験監督、前日程試験監督を担当し、スムーズな業務が遂行できた。</p> <p>②学科内のクォーター制度検討ワーキンググループメンバーとして、看護学コースにおけるクォーター制の導入に向けた課題について検討を行った。</p> <p>③看護学コースのFD委員会メンバーとして、ケアリングアイランド事業の支援を受け、6月には特別講師を招聘した危険ドラッグに関するFD講演会を企画、運営した。次年度もケアリングアイランド事業による支援を受け、キャリア支援に関するFD講演会を計画中である。</p>	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		古謝 安子	所 属	医学部 保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	在宅看護分野の教育目標は、看護専門職としての知識・技術・態度の習得、他専門職と連携協働できる能力及び社会の変化と医療の高度化・多様化に対応できる柔軟な思考と自主性を育むことである。担当科目では、映画や事例の事前課題で人間の多様性や思考の相違を理解させ、意見を聴取し授業に反映させる。院生の教育指導やTA活用による資質向上と、学生支援委員長として委員会を活性化し連携強化を図る。		0.30	学部教育では実践能力育成を目指した授業内容と演習が学生に好評で、実際の看護現場で役立つ内容を学べたと授業評価は90点台を得、大学院では前期・後期各1年次が研究計画の倫理審査承認を得て調査を始め、2年次は研究論文審査に合格しており目標は達成できた。グローバル化に向けた看護系のクォーター制検討をまとめ、学生支援委員長として委員会運営や引きこもり・欠席学生への学務課との協働、献血、就職支援に取組み成果がみられた。	
研究	0.30	運営費交付金による「長寿社会を支える人材育成プログラム」の2年目は、計画通り4村・1町での調査を実施し、研究成果を国内外学会で発表、論文投稿する。本学COC「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」事業は2年目で、八重山地区での研究的介入を実施する。		0.30	運営費交付金による「長寿社会を支える人材育成プログラム」は、計画通り調査を進め、昨年4離島データ分析は卒研報告し、本年2村の面接調査分析結果とともに、調査地に研究成果報告書として送付できた。本学COC「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」事業は、介入前後を研究的にアンケート調査し、管理職への聞き取り調査も実施して報告書作成ができた。	
社会貢献	0.20	臨床看護師の看護研究能力育成を目標に、琉大病院看護部と八重山地区看護師を対象に、年間を通じた集団・個別支援を実施し、介入前後で実践能力等の評価を実施し、プログラムの有効性を検討する。県・市町・看護職能団体において委員会(4)や講師を兼務し地域貢献を担う。		0.20	琉大病院看護部と八重山地区看護師への看護研究能力育成は、年間計画どおり実施し、両地区看護職への集合研修および病棟別研究指導を進め、昨年より充実した研究発表ができており目標達成できた。県・市町村・職能団体における委員会(5委員会)に積極的に参加し、依頼された講師等に対応できた。	
管理運営	0.20	全学の学生生活委員会に参画し、本学科学生支援に具体的に取り組む。臨床研究利益相反審査部会及び予算委員会等に積極的に参画する。本学科看護学コース長として全国・県内関連団体からの諸依頼業務を担い、コース会議の運営及び教員の連帯と資質向上に取り組む。		0.20	全学の学生生活委員会や就職センター委員会、学部学科の委員会に積極的に参加した。看護学コース長として全国関連団体からの諸業務を処理し、附属病院看護部との教育連携を進め、コース内の課題や検討事項を審議にのせて教員の連帯と資質向上に取り組んだ。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	大嶺ふじ子		所属	医学部 保健学科	
職名			職名	教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	<p>助産学必修科目(周産期学,助産の理論,ウイメンズヘルス,助産管理,助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,助産実習Ⅰ・Ⅱ,助産統合実習計28単位)担当として、助産師コース選択学生4年次3人、3年次5人に対する助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行う。学部生9人および大学院前期課程1名研究指導教員として、地域や施設において研究調査を指導する。教務委員長として、学部教育の履修・進路指導に関わる。助産師教育課程の大学院への移行をめざし、教育理念・科目内容・単位変更の留意点を説得力のあるものとし、スムーズな移行をめざす。チェンマイ大学交流タスクフォースに参加し、看護系学部学生とチェンマイ大学看護系学生間交流を促進する。</p>		0.40	<p>助産学必修科目(周産期学・助産の理論・ウイメンズヘルス・助産管理・助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・助産実習・助産統合実習計23単位)を担当し、助産学実践力教授活動自己評価尺度の基準を満たす講義・実習を行った。4年次5人、3年次5人計10名の卒業研究として、調査等を実施、研究指導した。大学COC事業「地(知)の拠点整備事業」琉球大学ちゅら島の未来を創る知の津梁「離島・僻地の周産期医療を担う人材(助産師)の育成に向けた取組において、離島での助産学授業を実践した。大学院前期課程2名の授業・研究に計画的に関わり1名の修了生を出した。平成30年度助産師教育の大学院への移行をめざし、文科省との事前相談準備中である。チェンマイ大学と本学科の学生間相互短期研修に協力し、教員・学部学生との学術教育交流(助産師教育の歴史・展望を講義・助産所見学)を行った。</p>
研究	0.30	<p>あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する調査を地域や施設において実施する。これまでの調査結果を研究論文(現在1編掲載通知あり、2編投稿中)としてまとめ、学会誌採択を目指す。妊産褥婦の冷えが出産アウトカムに及ぼす影響をテーマに28年度科研費採択を目指し調査研究を進める。</p>		0.20	<p>原著論文: Miki Hirata, Fujiko Omine, other 3 coauthor : Factors affecting the learning implementation of midwife in-service training in South Sudan. International Journal of Nursing & Clinical Practices, 3: 167, 2016 (open access journal). 文部科学省大学COC事業「地(知)の拠点整備事業」琉球大学ちゅら島の未来を創る知の津梁「離島・僻地の周産期医療を担う人材(助産師)の育成に向けた取組H15~18」に採択された。「母児の出産時ストレス状況が産褥期の母親に及ぼす心理的影響の検討」をテーマに、28年度科研費採択を目指す。</p>
社会貢献	0.20	<p>平成26年度JICA地域別研修「公衆衛生活動による母子保健強化アフリカ・中南米・ミャンマー地域」の研修講師を務め、助産師の資質向上のための教育事業に関わる。母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員、日本助産学会評議員としての職責を果たす。</p>		0.15	<p>母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・学部学生・大学院生とともに県内中学校での出前講座を行った。チェンマイ大学と本学科の学生間相互短期研修を毎年双方の大学で実施し、国際的視点を育むための教員・学生との学術教育交流(助産師教育の歴史・展望を講義・助産所見学)を行った。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たした。日本母性衛生学会、日本助産学会評議員としての職責を果たした。</p>
管理運営	0.10	<p>保健学科教務委員長として、会議の議長をつとめ、職責を果たす。大学評価外部評価委員会医学部保健学科執筆担当として、平成27年度最終報告書作成に協力する。保健学科学務委員会3号委員、附属病院将来計画委員会5号委員、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員としての職責を果たす。</p>		0.25	<p>保健学科教務委員長として、会議の議長をつとめ、保健学科教育全般の管理運営に関する職責を果たした。大学評価外部評価委員会医学部執筆担当として、平成27年度最終報告書作成に参加した。保健学科学務委員会3号委員、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員としての職責を果たした。助産師コース選択学生4年次3人、3年次5人および大学院前期課程2人の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、適性な単位取得を確認、学習意欲を促進できるような指導を行った。</p>
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前	遠藤由美子		所 属	医学部 保健学科		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫 (講義日程、資料、教授方法の工夫) 2.医学部教習科目および保健学科看護・検査コース合同授業への参画 (シミュレーション演習、薬害に関する講義・演習) 3.卒業研究における教育法の工夫(演習の運営方法) 4.大学院生(前期、後期課程)への研究指導補佐 (研究計画、倫理審査準備、論文作成の補佐) 5.小児看護学教育への協力(講義分担任当) 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 7. チェンマイ大学との交流タスクフォース (チェンマイ大学学生受け入れおよび本学学生派遣)		0.40	1.アクティブラーニングを意図した講義の工夫:講義資料(自習書)の大幅改定、講義構成を見直し、学生によるミニ講義とディスカッションを取り入れた。 2.シミュレーション演習(医学部教習科目)の分担任当、薬害に関する講義・演習(保健学科看護・検査コース合同授業)を企画、運営実施した。 3.ゼミを定期開講し、文献抄読と並行して研究概論やプレゼンテーション法の演習を行い、論文作成やプレゼンテーションのポイントについて教授している。 4.大学院前期課程の研究計画、倫理審査準備、論文作成の補佐を行った。 5.小児看護学講義分担任当した。 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 7. チェンマイ大学との交流事業で、研修運営に参画した。		
研究	0.40	1.科学研究費による研究の実施 ①基盤C分担任研究:妊娠・授乳期の食事摂取状況の実態と母乳栄養継続に関する全国縦断調査 ②基盤C分担任研究:女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築 2.大学COC事業における調査研究 島嶼医療における看護職の臨床看護研究育成能力 3.研究成果の公表(論文、学会発表) 4.平成28年度科学研究費およびその他外部研究資金獲得申請		0.40	1.①分担任研究者(山形大との共同研究)として調査および学会発表を行った。論文投稿に向けて準備中である。 ②分担任研究者として研究計画立案と実施を補佐した。 2.島嶼医療における看護職の臨床看護研究育成能力事業を進行中である。 3.学会発表 国際(筆頭1、共同3)、国内(筆頭1、共同3)、論文発表: 原著共著2(英1、邦1)、査読中(共著、邦1) 4.平成27年度科学研究費の採択はならなかったが、大学COC事業(ちゅら島の未来を創る知の津梁(かけ橋):前期教育関係)に申請中である。平成28年度科学研究費の申請を行った(1件)。その他外部研究資金獲得申請も、不採択(2件)		
社会 貢献	0.12	1.琉球大学附属病院看護部研修企画・運営支援(看護研究) 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の個別指導 3.大学COC事業における八重山地域の看護研究支援事業計画、実施 4.オープンキャンパスの運営(平成27年度担当分野) 5.第20回日本看護研究学会九州・沖縄地方会査読委員		0.12	1.2.附属病院看護部の2部門3課題の看護研究を担当し指導中である。そのうち2課題は学会発表支援を行った。研修講師を務めた。H27度に引き続き、定期的に附属病院看護研究支援委員会メンバーと研究支援ゼミを実施している。 3.大学COC事業における八重山地域の看護研究支援事業計画、実施した。大学COC事業の実績を活用し申請中であつた看護研究力向上講座が平成28年度公開講座に採択された。 4. オープンキャンパスの運営を行った(平成27年度担当分野)。 5.第20回日本看護研究学会九州・沖縄地方会査読を行った。		
管理 運営	0.08	1.生涯学習教育研修センター委員会への参画 2.附属図書館学術情報基盤整備、運営委員会への参画 3.資料館(風樹館)運営委員会への参画 4. 医学部交通安全対策委員会への参画		0.08	1.ジェンダー協働推進室会議への参画(1回/月) 2.ダイバーシティ推進会議への参画(2回/年) 3.生涯学習教育研修センター委員会への参画 4.医学部交通安全対策委員会への参画		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		玉城陽子	所 属		医学部 保健学科
職 名				助 教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	1.周産期学(7回)、助産の理論(1回)、母性看護実践学(演習3回、講義1回)、母性看護学(演習2回)、助産診断・技術学Ⅰ(講義1回)を担当 視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。 2.助産診断・技術学Ⅱの科目担当 助産診断について実際の症例検討を加えながら講義する。 3.助産診断・技術学Ⅲの科目担当 本年度からの新規科目である。シミュレーション教育を取り入れて演習を実施する。(特に分娩期にロールプレイを導入する) 4.助産実習Ⅰ 本年度からの新規科目である。 6月より実習調整を開始、7月より継続症例の妊婦健診での外来実習を開始、9月分娩介助の基本的な実習を実施。 5.助産実習Ⅱ 10月・11月病棟での実習を実施。長期の実習であることから、学生の健康の自己管理についても指導をしていく。 6.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導 7.基礎教育科目シミュレーション演習(1回)担当		0.50	1.周産期学(7回)、助産の理論(1回)、母性看護実践学(演習3回、講義1回)、母性看護学(演習2回)、助産診断・技術学Ⅰ(講義1回)を担当した。母性看護実践学では、演習項目を減らし、コアとなる看護技術の習得に力を入れるようにした。また、実際病棟で使用している物品等を視覚教材として使用し、イメージできるように工夫した。 2.助産診断・技術学Ⅱの科目担当 大学COC事業「地域志向教育推進経費」に採択され、離島・僻地の周産期医療を担う人材の育成に向けた取り組みとして、南大東村での助産師による妊婦検診についての体験学習を取り入れた。 3.助産診断・技術学Ⅲの科目担当 妊娠期、分娩期、産褥期それぞれの事例を提示し、シミュレーション教育を取り入れて演習を実施した。 新生児蘇生法の講義をする上で必要と考え、新生児蘇生法専門コース(A)の認定を取得した。 4.助産実習Ⅰ 6月実習調整、7月継続症例の妊婦健診での外来実習を開始、9月分娩介助の基本的な実習を予定どおり実施した。 5.助産実習Ⅱ 10月・11月病棟での実習を実施した。受講学生全員が規定の分娩介助症例10件をクリアすることができた。学生は体調を崩すことなく終了することができた。 6.卒業研究Ⅱの登録学生2名は、一連の研究方法を指導し、発表・論文作成まで終了することができた。加えて、博士前期課程の学生の分析、発表、論文作成の指導補助を行った。 7.基礎教育科目シミュレーション演習(1回)を担当した。
研究	0.40	1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」に焦点をあてて研究している。博士論文として投稿する。 2.科学研究費助成(基盤C)による研究の実施:「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」 3.オムロン株式会社との共同研究を実施 4.研究成果の公表(学会・論文投稿等)		0.30	1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」に焦点をあてて研究し、分析方法を見直し、現在結果・考察を執筆中である。3月末投稿予定。 2.科学研究費助成(基盤C)「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」において、臨床倫理審査により対象の変更を余儀なくされたが、計画を修正し予定どおり本年度の計画を終了することができた。 3.オムロン株式会社との共同研究については、共同研究者の都合により実施を延期することとなった。 4.「出生体重と母体の栄養摂取状況」の一部について The ICM Asia Pacific Regional Conference 2015にて発表した。
社会 貢献	0.10	1.沖縄県助産師会の研修への協力 2.全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員として、他大学と協力しながら助産師教育の質の向上と、教育課程について検討していく。 3.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当 4.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩介助法の講義・演習を5日間実施 5.オープンキャンパスの運営担当		0.10	1.日本助産師会の九州・沖縄地区研修会の運営委員を務めた。 2.全国助産師教育協議会総会に参加し、助産師教育の大学院への移行に向けての情報収集、意見交換ができた。 3.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当し、本部・支部長との連絡と事務処理を実施した。 4.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩介助法の講義・演習を5日間実施した。3症例設定し、実際に即した演習を実施し、教員、学生からも好評であった。 5.オープンキャンパスの看護コース運営担当として、滞りなく実施することができた。
管理 運営	0.05	チェンマイ大学交流タスクフォースのメンバーとして会議・運営に参加する		0.05	1.チェンマイ大学交流タスクフォースのメンバーとして会議に参加し、しおぎ助産院での見学・講義の調整、助産選択学生との交流を企画し実施した。 2.クォーター制検討ワーキンググループの一員として、看護学コースカリキュラム・時間割作成、助産師養成課程についてのカリキュラム作成に尽力した。
進路 指導	0.05	卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施する。 卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施する。		0.05	助産学生4年次への就職相談を行った。 大学院前期課程学生の修了後の転職の相談を受け、大学教員採用の情報提供を行った。 助産を選択した卒業生および助産師会会員に対して大学院進学への情報提供を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		辻野 久美子		所 属		医学部 保健学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.42	<ul style="list-style-type: none"> ・学科・研究科の基本理念、看護学教育目標を基盤とし、学部教育においては、学生が看護職者に必要な知識・技術を習得し、資質の向上が図れるように教授法を工夫する ・大学院の授業はゼミ形式とし、学生が自主的に小児看護学を学び、理解が深まるようにサポートする ・博士後期課程の学生2名の研究指導、論文作成を指導する ・卒業研究指導および進路指導を行う ・新入生の指導教員として、その責務を果たす 				0.42	<ul style="list-style-type: none"> 目標は達成できた。 ・学部教育については昨年に引き続き、学生主導のプレゼンテーションや演習を実施し、学生評価も概ね良好であった。大学院ではゼミ形式の授業展開に加え、学生が多角的に母子支援を捉えることが出来るように外部講師による特別講演を企画した。 ・卒業研究指導を4名に行い、文献検索から研究発表まで、一連の研究の流れを教授した。修士・博士論文研究指導をそれぞれ1名に実施した。 ・新入生の指導教員としての責務を果たし、担当の学生19名は全員無事に進級する予定である(1名は家庭の事情で5月以降休学中)。 ・進学、就職の個別相談に応じ、進路指導を行った。 				
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・学会誌への投稿を行う ・国際・国内学会において研究成果を発表する ・外部資金の獲得に積極的に努める(科研費、厚労科研補助金、学内助成金他) ・他大学と共同研究を継続実施する 				0.40	<ul style="list-style-type: none"> 目標は達成できた。 ・英文原著論文1編、和文原著論文1編を学会誌に掲載した。 ・国際学会で1編、2つの国内学会で5編、研究発表を行った。 ・科研費1件が採択され(研究代表者として3年間)、研究に着手した。 ・科研費1件の助成を受けた(研究分担者)。 ・山口大学(継続1件)の教員と、遺伝看護の協同研究を実施中である。 ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA)の「スーパーバイザー養成講座」を受講し、M-GTAの研さんに努めた。 				
社会 貢献	0.09	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における関連部署、担当者と連携を図る ・講演等の要請があれば、積極的に応じる ・「沖縄県発達障害児看護を考える会」の月例会を継続して企画する ・「沖縄県発達障害児親の会・マイワールド」の副会長の責務を果たす ・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA)の「沖縄県地方研究会」(昨年度設立)活動を開始する 				0.09	<ul style="list-style-type: none"> 目標は達成できた。 ・「沖縄県発達障害児(者)看護を推進する会」を立ち上げ、昨年に引き続き、自閉症児の保護者、教員、学生による勉強会を月1回継続実施した。 ・「沖縄県自閉症親の会」の副会長(賛助会員)として、会の運営に協力した(メール会議への参加、NHKハートフォーラム共催に関するサポート等) ・「M-GTA沖縄地方研究会」の代表としてワークショップ、特別講演会を企画運営し、本学科および県立看護大学の教員・院生の質的研究に貢献した。 				
管理 運営	0.09	<ul style="list-style-type: none"> ・分野の長としての責務を果たす ・各種委員会委員等、任命された委員会における責務を果たす 				0.09	<ul style="list-style-type: none"> 目標は達成できた。 ・所属分野長としての責務を果たした。 ・入試委員会・博士後期課程論文資格審査委員会委員等の責務を果たした。 ・所属分野の長として、所属内同僚の研究・論文指導を行い、原著論文の掲載に繋ぐことが出来た。 				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 				1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	小林 潤	所 属	医学部 保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	学部教育においてIT機材をつかった遠隔教育、海外学生を含めた英語での教育を導入し自己評価を行い来年度のシラバス作成に反映させる。参加型学習法は継続させ、保健医療の現場でリーダーとして推進するための考える力をつけさせるが、さらに参加型教育が難しい遠隔教育、英語での教育に導入できないかも検討する。大学院教育では、留学生特別プログラムを主体に、後期入学体制を整え教室内外教員との連携を強めて体系化したカリキュラム作成と英語による教育の実施体制を強化する。	0.31	学部学生教育については、保健政策福祉論、保健関係法規において公衆衛生上の新しい課題(少子高齢化、子供の貧困)をとりいれ参加型学習法を発展させてとりいれた。遠隔教育については、他大学の登録が予定されていたが取り消しになったため行わなかったが、この点の遠隔教育は海外派遣中の大学院生の教育に大いに導入して成果を上げた。症候病態論について一部体系的指導・評価体制をとりいれたが、多教官によって構成しているため再検討が必要と考えている。大学院教育は英語での教育への取り組みだけでなく、留学生と日本人学生がともに学べる環境を作りをおこなってきたことより相乗効果ができてきていると評価する。また教室配属の学部学生と大学院教育を連携させ、学部教育のなかでの国際保健研究が実現するように工夫をして成果をえた。大学院修士課程の研究が期間内に終わらないものがでてしまっており、海外での研究実施を早期に開始するなど指導計画の再検討が必要となっている。また指導教官として一部学生へのメンタルサポートを積極的に実施している。	
研究	0.30	継続6課題(科研1課題、国際医療研究開発費2課題)について、研究の推進と研究の公表を図る。新規1課題(国際医療研究開発費)については研究会議の開催等、海外共同研究者と国内研究者のマッチング等研究実施体制を研究班全体に諮る。分担研究者として担当するJST2課題(ケニア・ラオス)について現地研究体制をさらに強化する。科研費の獲得をめざし、27年度不採択の課題申請書の内容を再検討し研究班体制の再構築・研究課題の再検討により新規研究費獲得を目指す。	0.28	国際学術誌に7編の論文(ラスト著者が5編)が掲載され、指導・研究開発実施責任者としての成果は出せたと考える。また後期より沖縄県感染症研究拠点事業の一つにプロジェクトリーダーとして応募した研究班が採択され、研究を開始した。このため既存の研究班に対するエフォートが少なくなってしまうことが危惧されたが、最終年度である国際医療研究開発費2班、科研費1班においては論文採択または投稿とそれぞれ研究成果があげられている。AMED支援による大型研究2班(ラオス・ケニア)は分担班責任者として実施しているがエフォートが分散されているため、未だ研究成果が最終化されていないため今後の努力が必要になっている。またエフォートの都合上、主任としての科研費応募は見合わせたが、分担者協力者として若手研究者が主任研究者としての申請することを指導をした。	
社会 貢献	0.17	国際学校保健コンソーシャム理事長として、シンクタンク機能を拡大し若手人材育成をも強化する。NPO法人JAMの代表としての難民支援を継続支援する。JICA研修事業獲得をめざし、大学院教育とのリンクを確立する。	0.17	国際学校保健コンソーシャムは学校保健の国際戦略であるFRESHの調整グループに参画することに成功し、且つ11月にはWHOの学校保健テクニカル会議開催に技術顧問として企画・運営を成功させた。またJICA研修事業は民間コンサルタントと連携し、技術的な支援を受け持つことで3年間の契約を取り研修を開始させた。これにはJICA沖縄と連携し本学大学院生の正式参加ができることになり大学院教育とも連携させて行っている。また看護協会が実施するJICA研修6コース全てに研修講師として参画し、これにも大学院生を聴講生として参加させ開発途上国の行政官とともに学べる体制を確立した。フィリピン大学・タイ国マヒドン大学・長崎大学では客員教員として講義をうけもつなど指導を実施し、さらに国際保健医療学会学生部での指導や研究連携大学での指導を行い本学大学院への進学を促すなど大学院広報を同時に行っている。	
管理 運営	0.20	昨年度確立した学部学生・大学院生の海外研究の実施につきマネジメント体制(共同研究・倫理・安全等)を強化して特に増大するテロ等のリスク対応強化を行う。また看護コースの研究支援体制をさらに強化する。留学生の学業・生活を含めた支援体制を確立する。	0.21	学部学生・大学院生の海外への派遣を積極的に行い、且つリスクマネジメント強化を行った。現在まで、早期発見早期対応によって大きな事故けが疾病には至っていない。また留学生の生活等の支援を積極的におこない、学業に成果をだせる体制を整えている。ラオス・フィリピンの協力機関からは一定の評価を得ている。	
進路 指導	0.03	引き続き国際保健分野を志望する学生のコンサルテーションを継続し大学院生にも拡大させ、適切な進路選択を促す。卒業時の指導だけではなく、学習機会と進路指導をリンクさせる。	0.03	指導教官として担当学生・他には進路指導をおこなっている。特に国際保健分野を志望する学生には、キャリアパスとして何が必要かをガイダンスして個人の選択による進路選択を促している	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野中大輔	所 属	医学部 保健学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.70	大学院生に対する教育(国際地域保健学特論・演習)について、週一回約二時間の授業を担当する。		0.70	大学院生に対する教育(国際地域保健学特論・演習、公衆衛生研究手法)について、週2回以上、1回当たり約1.5時間の演習や講義、コンサルテーションなどを担当した。他に、学部生に対する教育(症候病態論)を担当した。よって、目標は達成されたと考える。	
研究	0.10	海外学術誌に3編の論文発表を行う。国際学会にて1回の報告発表を行う。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究推進に貢献する。科研費や民間の研究助成金(大山健康財団など)に応募し、外部資金の獲得を目指す。		0.10	海外学術誌に2編の論文発表を行った。国際学会にて2件の報告発表を行った。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究推進に貢献した。科研費や民間の研究助成金(宇流麻学術助成金)に応募し、外部資金の獲得を目指した。さらに、SATREPS研究プロジェクトの研究協力者として、ラオス国の寄生虫対策研究に貢献した。よって、目標は達成されたと考える。	
社会貢献	0.10	大学のプロジェクト(ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクト)に参加したり、JICA研修「エビデンスに基づく公衆衛生計画立案」へ講師として参加することで、国際社会に貢献する。		0.10	大学のプロジェクト(ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクト、ラオス国)に参加したり、アフリカやアジア諸国の研修員を対象としたJICA研修「エビデンスに基づく公衆衛生計画立案」へ講師として参加することで、国際社会に貢献した。よって、目標は達成されたと考える。	
管理運営	0.10	国際地域保健学教室の準責任者として、教室の管理運営に努める。ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクトのプロジェクトマネージャー補佐として、プロジェクトの管理運営に貢献する。		0.10	国際地域保健学教室の準責任者として、教室の管理運営に努めた。ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクトのプロジェクトマネージャー補佐として、プロジェクトの管理運営に貢献した。よって、目標は達成されたと考える。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		外間 知香子		所 属		医学部 保健学科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	①前期の地域看護学の講義を担当し、講義全体の進め方を習得する。 ②担当する講義の資料を1週間前までに教授に見せて助言をもらい、3日前までに印刷を依頼することができる。 ③卒業研究のゼミで学生から積極的な意見の聴取を行い、指導・助言ができるようにする。 ④保健師国家試験対策模試の係として、4年次の国試対策を実施する(年2回)。				0.30	①②教授と相談しながら講義全体の進め方を習得できた。担当する講義の資料は毎回締め切り間際になったが講義は実施することができた。 ③卒研のゼミでは学生のやりたいことを聴取できるように心がけた。指導助言については十分にはできなかった。 ④保健師国家試験対策模試を2回とも予定通りスムーズに実施できた。				
研究	0.40	①『0歳児をもつ母親の交流頻度と母親役割の受容』に関する研究を琉球医学会誌へ投稿する(5月)。 ②人材育成や母子保健に関するテーマについて科学研究費助成の申請を行う(10月)。 ③日本看護協会主催のヘルスプロモーション学会で厚生科研による研究成果を発表する(11月)。 ④毎月開催の保健学研究会に参加する(年11回)。				0.30	①論文は投稿に向けて準備を継続している。 ②『島しょ地域における障がいのある母親への行政保健師の育児支援に関する研究』の研究申請を提出した。 ③平成27年11月7日に日本看護協会主催のヘルスプロモーション学会で『新任保健師のこども虐待予防の研修受講とこども虐待への対応との関連』を発表した。同学会誌に論文として投稿中である。 ④保健学研究会は11回中5回参加した。また、上記③の内容を10月に発表した。				
社会 貢献	0.10	・沖縄県看護協会主催の「新人保健師研修」の4回のうち1回を講師と担当し、新任保健師の育成に努める。				0.10	・新人保健師研修会は講師の補佐として、ファシリテーターを務めた。				
管理 運営	0.10	①教室の卒業研究登録学生や大学院生との合同ゼミの開催の連絡調整を行う(前期:毎週1回)。 ②オープンキャンパスの準備、運営を学生に指示することができる(7月)。 ③看護学コース会議に毎月参加する(月1回)。 ④研究概要(教室分取りまとめ)を作成する(年1回)。				0.10	①ゼミの連絡調整をスムーズに実施できた。 ②オープンキャンパスでは前日から3年生と準備をして、当日もスムーズに運営することができた。 ③コース会議は実習調整で参加できない日を除き、すべて出席できた。 ④教室の研究概要を期日に間に合わせて提出することができた。				
その他	0.00					0.20	全国保健師教育機関協議会の幹事校の事務局として、会議・研修会を運営した。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		與古田 孝夫	所 属	医学部 保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材、研究業績を活用した授業展開 ・TA(Teaching Assistant)による授業補助及び授業法の教授、研究指導法について助言 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に応じて関連する視聴覚教材を活用するなど、学生の興味関心をひく授業展開を心がけた。授業内容に関連するものについては、研究で得られた知見を提示した。指導する大学院前期課程1年次学生1名をTAとして活用し、授業法の教授並びに研究指導法について助言を行った。 ・開講授業の評価は、前期の「精神看護学」が85.0点、後期の「精神看護実践学」が87.2点であり、教育領域の目標は達成できたと考える。 	
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・助教・大学院学生を含む研究論文の投稿、発表 ・助教・大学院学生を含む関連学会への成果発表 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・原著論文4編(共著)が学術誌に受理され、国内学会において1演題の発表を行った。 ・科学研究費補助金基盤研究(C)(代表):「島嶼県沖縄の伝統型地域力が介護および介護扶養意識に及ぼす影響」、平成27年度 特別経費(代表):「長寿社会を支える人材育成プログラムによる調査研究」、平成27年度琉球大学COC事業:「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」(分担)による調査研究、琉球大学女性研究者支援研究費:「SST(Social Skills Training)を活用した統合失調症患者の心的外傷に及ぼす介入効果の検証」等の外部資金を獲得した。 以上の研究成果発表及び外部資金獲得等、研究領域の目標は達成できたと考える。 	
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・学外審査会委員活動 ・学術集会における講演・研修会活動 ・教育機関への教育支援 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・西原町及び中部広域連合の介護認定審査会委員を務めた。 ・西原町障害者介護給付認定審査会の委員長を務めた。 ・沖縄県介護審査会委員を務めた。 以上の活動により、社会貢献領域の目標は達成できたと考える。 	
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・全学及び所属部局における委員会活動 ・所属学科等の管理運営活動 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学研究科学務委員長、全学大学院委員会委員を務めた。 以上のことより、管理運営に係る目標は達成できたと考える。 	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中康春	所 属		医学部 保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	担当する学部講義5科目、大学院科目について、新しい知見も取り入れながら講義する。3年次、4年次計11名の卒業研究指導においては、英語文献を採り入れながら、丁寧な指導を心掛ける。			0.35	3年次の臨床化学において、PBL形式の授業を取り入れた。卒研指導においては、卒研生の研究に役立つ英語文献を用いた授業を実施した。担当科目の講義に最新の科学情報を盛り込んだ。卒研指導する4年次学生に対し、臨床化学領域の国試対策集を作成・配布した。修士、博士課程大学院生3名の学位審査に携わった。以上より今期目標は達成できたと判断した。		
研究	0.40	現在進めている研究課題について、全国学会もしくは論文として発表を目指す。学外研究機関との共同研究を、さらに押し進める。外部資金獲得を目指す。			0.40	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会合同大会にて、研究発表した。外部資金として継続で文科省より研究費を獲得した。学外研究機関との共同研究は成果について、特許出願を目指す方向に進んでいる。よって今期目標は達成された。		
社会 貢献	0.02	琉球医学会役員として、学会運営に関与する。			0.02	本年7月まで琉球医学会役員として活動に参加した。目標は達成した。		
管理 運営	0.23	運営会議、教授会、委員会等において、積極的に議論に加わることで、責務を果たす。			0.23	関係する会議、委員会において、積極的に意見を述べた。検査技術学コース長としての業務をこなした。今期目標は達成できた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	平井 到		所 属	医学部 保健学科		職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	講義・実習においては、積極的な学習姿勢を涵養できるよう、学生との対話を増やす仕組みを設ける授業展開をすすめる。また、3年次生の指導教員であるため、卒後自立していかなるものにも取り組める医療人を目的とした学習へ積極的に取り組めるよう、進路指導を行う		0.35	おおむね目標は達成できたと考えられる。講義中に受講学生に対し偏りが無いように質問を投げかけるなど講義で重要な点について考えることを求め、また、学生から質問を受けるように仕向けた。指導教員としては休みがちな学生や精神的なストレスを抱える学生への対応なども行った。		
研究	0.35	日本学術振興会の科学研究費の獲得をむけ学内外の共同研究者と研究計画を作成し申請する。複数の論文投稿、国際、国内学会での発表を行う。外部資金の獲得にむけ複数の研究財団等に研究提案を行う。		0.35	来年度以降の科学研究費獲得に向け複数(研究代表者として3課題、研究分担者としても複数)の申請及び、財団等への申請を行った。また、これまで本年度中に5編の論文が雑誌掲載され、その他2論文が論文受領(アクセプト)となっている。国際学会の発表1回、国内学会の発表3回などであり、目標はおおむね達成できたと考えられる。		
社会貢献	0.15	地球規模課題対応国際科学技術協力におけるベトナム研究者への技術移転を行う。ベトナム人研究者1名を招聘し技術講習を行う。		0.15	地球規模課題対応国際科学技術協力におけるベトナム研究者への技術移転を行った。ベトナム人研究者1名を5か月間招聘し技術講習を行った。これら成果の一部は論文の形でまとめられた。		
管理運営	0.15	「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会」等の委員会への積極的な取り組みを行う。		0.15	「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会」等の委員会への積極的な取り組みを行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		尾尻義彦	所 属	医学部 保健学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットWebclass (ICT)による授業の実施 ・学生実習(生理学・臨床生理学Ⅰ)の効率化と充実を図る ・卒業研究の指導 ・公開講座「市民ランナーのためのランニング講座」の実施 ・公開講座「ミニトランポリン運動教室」の実施 ・公開講座「ミニトランポリン運動ワークショップ」の実施” 		0.35	目標はすべて達成された。	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニトランポリン運動の医学・生理学的効果に関する研究 ・高齢者の歩行機能回復トレーニングに関する研究 		0.20	「ミニトランポリン運動の医学・生理学的効果に関する研究」は実施し継続しているが、「高齢者の歩行機能回復トレーニングに関する研究」は未だ準備段階である。	
社会 貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を対象としたランニングクラブの運営と指導 ・沖縄リハビリテーション福祉学院における「生理学」の支援 ・今帰仁村におけるスポーツ振興の支援 ・ミニトランポリンによる健康運動の啓蒙・普及 		0.35	目標はすべて達成された。	
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・講座連絡会の運営 ・大学入試センター試験監督 ・オープンキャンパスの準備・運営 		0.05	目標はすべて達成された。	
進路 指導	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー等における進路指導 		0.05	目標はすべて達成された。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福島 卓也	所 属		医学部 保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト 比(予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が理解しやすい授業の工夫 ・学生とのコミュニケーションを重視した授業 ・学部生への研究指導 ・保健学研究科学生に対する専門教育 ・国費外国人留学生に対する専門教育 			0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・実例を挙げたり、実際の写真を使用して授業に工夫を加えた。 ・4年次学部学生の卒業研究指導を行った。 ・博士前期課程2年次学生の修士論文指導を行った。 ・博士後期課程1年次学生の研究指導を行った。 ・国費外国人留学生の研究指導を行った。 		
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金によるATL研究 ・厚労省科学研究費補助金(塚崎班、金倉班)による分担研究者としての研究 ・論文投稿 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金によるATL研究の3年目を推進した。 ・AMEDによるATL研究2つを推進した。 ・2本の論文(共著2)を発表した。 		
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療機関への診療支援 ・骨髄移植推進財団調整医師としての活動 ・日本血液学会評議員としての活動 ・日本造血細胞移植学会評議員としての活動 			0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートライフ病院、かりゆし病院にて診療支援を行った。 ・日本血液学会評議員、専門委員会委員、造血器腫瘍診療ガイドライン委員として活動した。 ・APBMTでシンポジストとして講演した。 		
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学科長としての仕事 ・保健学研究科長としての仕事 ・医学部内委員会委員としての活動 ・学科内画委員会委員としての活動 			0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学科長として保健学科の運営に尽力した。 ・保健学研究科長として保健学研究科の研究活動の活性化に尽力した。 ・医学部、学内委員として活動した。 		
診療	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・医学部附属病院血液内科外来担当 ・血液内科入院患者カンファランスでのアドバイス 			0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・血液内科外来を週1回担当した。 ・第二内科血液グループ入院患者カンファランスに週1回参加し、診療の助言を行った。 		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮良 恵美	所 属	医学部保健学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	学部科目(免疫学、臨床免疫学、臨床血液学、健康食品学)の一部を担当し、講義と実習を行う。卒業研究を指導する。		0.40	免疫学と臨床免疫学の分担された講義を行った。また、臨床血液学と臨床免疫学では実習を担当して検査の基本的な原理や技術を指導できた。卒業研究は実験手技の指導ができた。	
研究	0.40	育児休業で中断していた科研費の研究を再開し、具体的にサンプルの化学分析と機能性解析を行う。また、研究発展に必要な実験技術を習得し、スキルアップに努める。研究成果を論文にまとめ、学会誌への掲載を目指す。		0.40	科研費研究は今年度計画していた内容の8割を実施できたが、研究成果の論文化には至らなかった。ATL関連検査ではFCMIによる表面抗原解析やCancer testis antigenのRT-PCR法を新たに導入できたが、機器の不具合やサンプル細胞数不足でルーチン化には課題が残った。	
社会貢献	0.05	沖縄県臨床検査技師会が開催する学会・研修会等の開催を手伝う。健康食品管理士会沖縄支部の活動に参加する。		0.05	沖縄県臨床検査技師会関連の学会に実務員として参加し開催をサポートした。健康食品管理士会沖縄支部の市民公開講座開催を手伝った。	
管理運営	0.10	オープンキャンパスで保健学科の紹介に努める。入試の試験監督を行う。		0.10	オープンキャンパスでパネルや標本の展示・説明を行って学科の紹介ができた。分担された入試業務も行った。	
進路指導	0.05	学生の就職・進学に関する相談に応じ、情報を提供する。		0.05	学生・過卒生の相談に応じ、就職に関する情報提供ができた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		